

(人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

このたび以下の研究を実施いたします。本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【研究計画名】 多系統萎縮症治療薬の創出のための仮説検証研究

【研究責任者】 国立精神・神経医療研究センター病院 臨床検査部 佐野輝典

(2021年1月より、研究責任者が高尾昌樹に変更になりました。)

【本研究の目的及び意義】

多系統萎縮症は自律神経障害や小脳性運動失調などを引き起こす進行性の神経変性疾患で、現在有効な治療薬はありません。そのため、多系統萎縮症に対する有効な新薬の開発は急務であると考えられます。多系統萎縮症では、異常な形に折りたたまれた α シヌクレインというタンパク質の凝集体が脳内に蓄積することが知られています。また、この凝集体が疾患の原因になっている可能性が指摘されていますが、詳細は解明されていないため、試験管内での実験等のみでは十分な創薬研究を行うことが困難です。本研究では、多系統萎縮症の治療薬の創出を目的として、脳検体を用いた創薬研究のための仮説検証試験を行います。この研究は、アステラス製薬株式会社との契約に基づいて行われる共同研究で、下記の試料およびそれに付随する情報がアステラス製薬株式会社に提

作成年月日： 2020年11月20日 第5版

供されます。研究の費用はアステラス製薬株式会社が負担します。従いまして、利益相反に該当します。

【本研究の実施方法及び参加いただく期間】

対象となる方

2009年1月1日以降に、国立精神・神経医療研究センター病院で病理解剖され、剖検検体の残余の保管及び研究使用に関して同意された方のうち、病理診断により多系統萎縮症又はレビー小体型認知症と診断された方、及びその対照として精神・神経疾患に罹患していない方

利用する試料・情報等

試料：剖検脳組織

情報：確定診断情報

研究期間

2018年10月22日より2023年3月31日まで

【共同研究機関】

アステラス製薬株式会社 研究責任者 神山佳輝

2021年1月

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院

所属 臨床検査部 病理検査室 氏名 齊藤祐子 佐野輝典 高尾昌樹

電話番号 042-341-2711 (代表)

作成年月日： 2020年11月20日 第5版

e-mail：yukosm※ncnp.go.jp（「※」を「@」に変更ください。）

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail：ml_rinrijimu※ncnp.go.jp（「※」を「@」に変更ください。）